

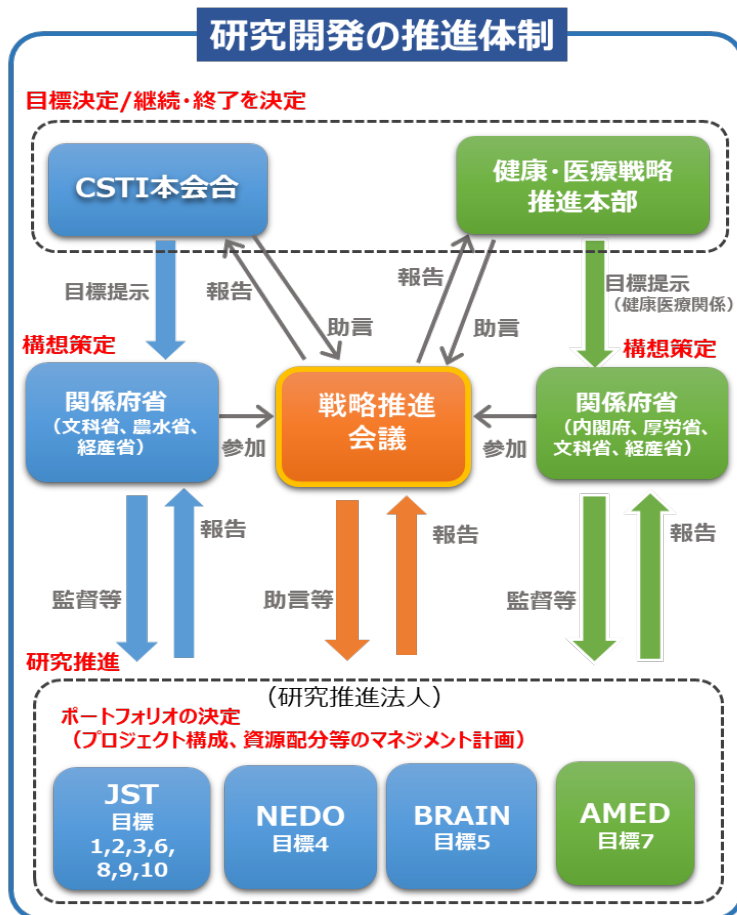
ムーンショット型研究開発制度 C S T I 5 年目評価における付帯事項 への対応について（目標 1・2・3・6）

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

令和 8 年 7 月 23 日

- ※ 目標7は健康・医療戦略推進本部

※目標7は2040年までの目標



目標1・2・3・6のCSTI 5年目評価について

1. 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）による5年目評価

- ムーンショット（MS）型研究開発制度では、運用・評価指針（※）において、研究開始時点から5年目にCSTIが評価を行い、MS目標の継続・終了を決定することが規定されている。

※運用・評価指針（抜粋）

4. 研究開発の実施方法

【実施期間】

- CSTIは、研究開始時点から5年目にMS目標に対する進捗状況、今後のMS目標の達成の見通しを評価し、MS目標の達成に向けた研究開発（プログラム）の継続・終了を決定する。

2. 目標1・2・3・6のCSTI 5年目評価結果

- 目標1・2・3・6（昨年11月末で開始から5年が経過）について、第80回総合科学技術・イノベーション会議（令和7年11月28日）において、CSTI 5年目評価実施要領に基づいて評価を実施。目標に対する進捗及び達成の見通しが確認できたため、**ターゲットを変更した上で「継続」と決定**。
- 継続にあたり、**目標毎に以下のような付帯事項に取り組み、戦略推進会議に付帯事項に係る対応について報告し、承認を得る**こととされている（各目標の評価結果等は内閣府MS制度ホームページに掲載）。

<付帯事項>

- ・ターゲットや目標達成の見通しを踏まえたポートフォリオ（プロジェクト構成、資源配分方針など）の策定
- ・開発する技術水準を国内外で比較できるベンチマークの設定、8年目及び10年目に目指す具体的な技術水準の設定
- ・2050年の目標達成に向けた社会実装シナリオの策定、関連施策や他の目標との連携
- ・倫理的・法制度的・社会的な課題の検討方針の策定
- ・人材育成上の課題抽出、プログラムの人材育成方針策定、国際連携計画の策定 等

「ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議」における CSTI 5 年目評価付帯事項の承認について

令和8年3月5日・13日(目標1・2・6)、7月14日(目標3)の戦略推進会議において、各目標のプログラムディレクター(PD)等がCSTI 5 年目評価の付帯事項に係る対応について報告し、承認を得た。

各目標に係る付帯事項への対応例は、以下のとおり。

目標 1

- 社会実装(臨床試験含む)のための資金調達やスタートアップ創出を目指す「事業化」層を含む、**4 層マネジメント**(①事業化、②社会受容基盤・国際標準化、③コア技術、④基礎研究)に変更。
- 若手研究者が4 層マネジメントをOJT体験できる「**次世代研究リーダ養成プログラム**」を推進。また、海外の世界トップレベル研究者と若手研究者のネットワーク構築を進める。

目標 2

- 2030年の社会実装を目指した研究開発課題(**社会実装先行テーマ**)と、より長期的な観点の研究開発課題(**革新的基盤テーマ**)に整理・優先順位付けし、**選択と集中や資源配分見直しを推進**。
- 本目標の特徴であるバイオと数理の連携を更に進め、**異分野融合的な研究人材を輩出**。サブプロジェクトマネージャー(サブPM)を設置して次代のPM育成を進めるなど、**体制の世代交代に取り組む**。

目標 3

- **新PDの下で再公募、異分野・若手人材も参画**する統合・専門・要素研究プロジェクトを採択し、ターゲット達成に必須となる基本的項目を揃えたポートフォリオを構築。**戦略推進会議よりプログラム加速に向けた追加予算措置への対応及び国や民間の他の取組との連携の必要性について指摘等があった。当該追加予算により、テーマ追加、プロトタイプ作製等予算の拡充、AI研究者の参画の拡大等に取り組む**。
- ①汎用性や適応力を実現する技術、②力触覚含めた身体性に基づく知能技術によりベンチマークし、国内外の研究開発動向を毎年把握するとともに、節目の年には**デモにより技術水準を比較**。

目標 6

- 5つの異なる量子コンピュータの方式を、2030年のシステム化を目指して**互いに競い合うようにポートフォリオを再構成**。各方式において、2030年の実機実現に直結するように研究課題を絞り込み。
- プロジェクトにおいて方式毎のロードマップを作成し、**誤り耐性に着目して物理量子ビット数と誤り率の双方をベンチマークとして設定**。